

## 「知」を武器に09春闘勝利を！

### ～近畿地協学習会に38人参加～

2月14～15日、京都・本能寺会館にて「近畿地協09春闘学習会」が開催され、近畿だけでなく、米子信金・鳥取信金・武生信金の仲間や未加入の仲間、協同組織金融の研究者なども含め38人が出席しました。

今回は、金融労連元副委員長の谷一明氏「金融危機下での地域金融機関のあり方」、大阪中央区労連地域労組「こぶし」書記長の江口裕之氏「非正規労働者の叫びがわかる労働組合づくりを」と題した二つの講演と、分散会、交流会、全体会が行なわれ、参加者からは「例年以上に内容のある学習会」「身近に感じる学習会」などの感想が出されました。

富士野議長は主催者挨拶で「年末からの派遣・期間工切り報道に見られるように、労働組合運動がマスコミに大きく注目され、とりあげられるようになってきた。学習をもとに大いに09春闘を闘おう」と呼びかけました。

#### 金融現場に活かせる講演内容

谷さんの講演は、自らのパソコンを駆使した内容豊富な資料をもとに「創業以来初めての赤字決算に銀行経営者が動揺しているが、100年に1度の金融危機などと天災のような言い方をして経営者としての反省が見られない」と自らの銀行の問題を辛口に評した後、「金融行政の被害者は金融機関以上に地元の中小業者や利用者である」として、新金融機能強化法や金融リスク商品問題、協同組織金融のあり方などを明快にする内容でした。



(金融労連・元副委員長 谷一明さん)

特に「精度の高い融資判断システム(格付け制度)は、中小企業排除・切捨ての論理」「滋賀銀行ではバブル期でも汗水流さない人には融資しないという方針を守り、ムチャをしなかったため、バブルの後遺症に悩まずに済んだ立派な経験を持っている。地域金融機関が、いま金融リスク商品に踊らされている



(中央区地域労組・江口書記長)

とバブルの二の舞を踏むことになる」「信金・信組などの協同組織金融は大資本に乗っ取られない制度。株式会社化すれば、敵対的買収の標的にされ、地域金融どころでなくなるのは明らか」などと警鐘を鳴らされた点は、大いに参考になると同時に金融労連の方針に改めて確信を与えるものでした。

#### 要求実現が労働組合への信頼に

江口さんは、地域で「ひとりでも入れる労働組合」の地域労組に寄せられるさまざまな実例をもとに、特に非正規労働者の置かれているひどい実態を紹介され、「相談者が労働組合に入らないと要求が実現できないことをわかってくれた時が、労働組合活動をやっていて本当に良かったと実感できる」と話されました。労働組合が自分の企業の労働条件改善だけに取り組むのではなく、労働組合もなく、地域で、もっともっとひどい状況に置かれている未組織労働者を応援しなくてはならないと痛感させられる講演となりました。

#### 職場の悩みまで交流できた分散会

3班にわかれて行なわれた分散会では、講演内容をさらに発展させる形で、金融リスク商品の問題や、人事考課・成果主義賃金、生活実態、残業など日常的な悩みまで出し合い、改善策を話し合いました。

#### 不慮の事故に備えた取り組みを

2日目の全体会議では、米子信金従組の長谷川さんから同組合が昨年労働共済に組織加入した経過が報告されました。長谷川さんは「組合員が不慮の事故や災害に見舞われている時に労働組合が何も経済的に応援できないようでは困ると考えて、労働共済に組織加入した。だれひとり組合員から反対の意見は出なかった」と報告。

最後に浦野副議長が「隣の労働者が感じている声をひとつずつ取り結んで達成感を持てるよう頑張ろう」と閉会の挨拶を行い、二日間にわたる学習会を終了しました。

# 合同後1年が経ちました

## 近信労きのくに信金支部第2回定期大会

2月7日、近信労きのくに信金支部第2回定期大会と同祝賀会が、組合員21名と地協役員4名が参加して開催されました。



午後5時から行なわれた定期大会では、各種議案を採決し、労働条件改善・統合後の各課題解決へ方針を決定しました。記念パーティーでは辻支部長が「時間外記入方法の改善など確実に成果も上げた取組を確信にして頑張っていこう」と挨拶。池永副支部長は「久しぶりに集まった仲間と楽しいひと時を過ごそう」と乾杯のあいさつをしました。

近畿地協からは浦野副議長が挨拶を行い、三菱東京UFJ銀行のパートさんが1人加入することで同様の状況にあった期限満了で実質解雇されようとしていた300人のうち100人余が銀行の職務に就くことができたことを報告しました。組合の活動に確信をもってきのくに信金の仲間へ近信労加入を呼びかけて、3周年5周年の時には2倍3倍の組合員で開催できるように頑張ろうと挨拶を行いました。

集まった組合員は、仲間の交流を深めあいました。その中でも涉外担当で苦勞している人たちとはそれぞれの仕事の仕方での悩み、感じていることを組合の場で交流することの大切さや、育児休暇明けで出勤する人の職場復帰の条件改善の取組希望や、60歳で定年を迎える組合員の悩みも出し合い、後に続く人のためにがんばろうとのはげまし合いも行いました。

合併後、いろいろ大変な思いもしてきただけに、「仲間っていいなあ」と実感できた集会成为りました。

## 滋賀銀行従組も大会開催

滋賀銀行従組は、2月21日、滋賀県守山市・ライズヴィル都賀山(つがやま)にて「滋賀銀行従組第102回定期大会」と「2008年度第7回年金者部会総会」を開催しました。大会では、春闘運動方針や就労条件要求についてなどを決定しました。

年金者部会総会では、滋賀民医連事務局次長・長田茂氏を招いて、「崩壊の危機にある日本の医療・介護制度の再生」について講演を受けました。

滋賀銀行従組では、毎年10月と2月(春闘方針決定のため)に定期大会が開かれています。

近畿地協からは、阿部事務局長と伊藤常任幹事が出席しました。

## 三信労が結成40周年

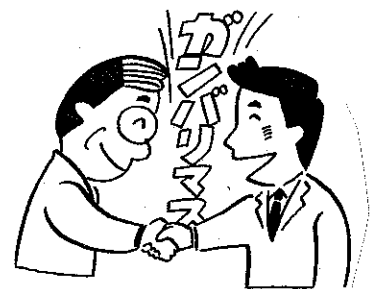
三信労(三重県信金労組協議会)は、2月21日～22日、三重県志摩市で第35回定期大会を開催し、運動方針などを決定しました。今年で結成40周年を迎えるため、夜は祝賀会も開かれ、三信労結成当時の役員の方々の姿も見られました。

三信労は以前から旧・全信労の友誼組合として、交流を深めてきました。合併などで企業数も減り、現在では北伊勢上野、津、桑名の3信金の労組だけとなっていますが、若い仲間の参加が多く、今でも「全信労時代に参考にした」労働条件調査票なども継続して発行しています。金融労連からは田畑書記長が参加し交流しました。

## 近畿大阪銀行で組合員拡大

職場での投信販売に関するパワハラを公益通報したにもかかわらず、事実を認めず改善されなかったとして、近畿大阪銀行の沼田教夫さん(54)が、2月26日付で近畿大阪銀行従業員組合を脱退し、銀産労に加入しました。公益通報問題では、近年、武生信金でも通報者に対して逆に処分(後に減給は撤回)をしてくるなど、企業内での通報システムが機能していないのが実態です。

銀産労は同日、銀行に対して組合加入通告・団体交渉申入れ、従組に対して脱退通告を行ないましたが、従組は専従役員がいるにもかかわらず、面談を拒否し、沼田さん本人だけから脱退届を受け取りました。この日の行動には、沼田さんと銀産労浦野、金融労連田畑、全損保下田さんが参加しました。



### 金融職場が病んでいる！

#### 増加するパワハラ労働相談

近畿大阪銀行の沼田さんをはじめ、最近、西日本事務所に金融労働者からのパワハラ相談が増えてきています。人減らしの上に成果主義賃金や金融リスク商品販売ノルマなどで、職場が壊れかけてきているのは間違いないようです。